

栃木県吹奏楽連盟<季刊>広報誌 平成30年度1号

吹奏太郎



目 次

★ 理事長 卷頭言	1	
「三年生…まだやることがありますよ！」		
栃木県吹奏楽連盟理事長	石塚 武男	
★ 1. 平成30年度 東関東吹奏楽連盟 マーチング講習会・発表会の感想	1	
ザ・ワールド・オブ・プラスinさわやかちば県民プラザ		
宇都宮市立星が丘中学校 ドラムメジャー	松本楓菜子	
★ 2. 第24回東関東バンドセッション及び第19回東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想	2	
真岡市立真岡西小学校 吹奏楽部 部長	篠崎 遥	
吹奏楽部 顧問	大塚万里子	
★ 3. 楽曲講習会の報告	3	
★ 4. 第24回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想	3	
小学校の部	栃木市立栃木第三小学校 スクールバンド部 部長	武井 大知
	真岡市立真岡東小学校 吹奏楽部 顧問	有馬 大志
	吹奏楽部 部長	渡邊真紀江
中学校の部 B部門	小山市立大谷中学校吹奏楽部 部長	磯 夏実
中学校の部 A部門	高根沢町立阿久津中学校吹奏楽部 部長	堀米 乃愛
高等学校の部 B部門	栃木県立大田原女子高等学校吹奏楽部 部長	大木香菜子
	栃木県立小山城南高等学校吹奏楽部 顧問	孤塚 謙一
高等学校の部 A部門	宇都宮短期大学附属高等学校吹奏楽部 部長	三塚 菜穂
★ 5. 第24回東関東マーチングコンテストに参加しての感想	7	
栃木市立大平中学校吹奏楽部 部長	巻島 碧泉	
★ 6. 第18回東日本学校吹奏楽大会に参加しての感想	7	
茂木町立茂木中学校吹奏楽部 部長	小林 優希	
★ 7. コンサート情報	8	
栃木県吹奏楽連盟加盟団体から広報部に寄せられたコンサートの情報です		
★ 編集後記	8	
栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長	沼尾 和子	

理事長 卷頭言

「三年生…まだやることがありますよ！」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

三年生の皆さん、県吹奏楽コンクールが終わり、夏休みも終わって部活動から引退だと、安心から、気が抜けた生活をしているのではないかと思います。

もちろん、進路のための勉強がありプレシャーの掛っている時期でもあると思いますが・・・。吹奏楽部で学んだ頑張る精神をこれから活かして勉強に励んでいただきたいものです。一日一日の積み重ねが知識の山となり、希望の進路先に合格するのです。

ところで、吹奏楽連盟の立場として、皆さんにお願いをしたいことがあります。それは、今までに吹奏楽で学んできた、音楽のこと、楽器の音の出し方、係り分担、部活動の精神など、後輩たちに引き継ぎすることを忘れていませんか。このことがしっかりと出来ていないと、あなたたちの後輩の部活動は進歩することが遅れてしまいます。

三年生は経験からたくさんの知識を持っています。それを後輩に引き継ぎ、後輩はそれを基にして、早い時点から活動することができれば、来年の夏のコンクールで、今年よりも目覚ましい良い成績を取ることが出来ることでしょう。

来年はもっと良い成績を、と後輩に託したことを忘れずに、後輩の面倒を見てください。そしてもう一つ、自分たちの演奏会。すなわち、校内体育館・校庭の片隅・町内の公民館・大小問わず、どんな形の演奏会であろうとも自分たちで演奏会を開くことを考えてみてください。顧問の先生とよく相談をし、そのことが実現したならば、なお一層仲間と絆が深まり達成感を感じ、音楽の素晴らしさを一層感じることでしょう。より音楽が好きになり、楽器を忘れることなく続けて行く秘訣です。

三年生部員に、一読ありましたならば幸いです。

① 平成30年度 東関東吹奏楽連盟 マーチング講習会・発表会の感想 ザ・ワールド・オブ・プラス 2018 in 県民プラザ

平成30年5月12日(土)実施 会場：さわやかちば県民プラザ・千葉県立柏の葉公園

「ザ・ワールド・オブ・プラスに参加して」

宇都宮市立星が丘中学校 ドラムメジャー 松本 楓菜子

今回、私達は初めてマーチングに挑戦しました。顧問の星先生が「ワールドオブプラスに参加するから」とおっしゃったのがきっかけで、私達のマーチングライフが始まりました。数少ないレッスンと初心者しかいない私達の練習はとても大変でした。

本番当日、会場に入った第一印象は「広い!」ということでした。ここにたくさんのお客さんが入ると思うとドキドキしました。さらに他校



のリハーサルを見るとレベルが高く、とても不安になりました。リハーサルも終わりいよいよ本番。多くのお客様がいて、さらに緊張しました。自分たちの演奏になんて緊張は収まらず、多少のハプニングがありましたが、全員で演奏を楽しむ事ができたのではないかと思います。そしてたくさんの団体の演奏を聴くことができ、とても勉強になりました。特に印象に残ったのは習志野高校と柏高校の演奏です。切れのある動きと美しいサウンドに感動しました。

マーチングを通して私達が学んだことは、責任感と積極性です。人任せにせず自分のやるべき事をしっかりとすることが大切です。他の学校の演奏を聴き自分たちの未熟さを知ることで、私達は一歩成長することができたのではないかと思います。

応援してくれた皆さん、指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

② 第24回東関東バンド・セッション2018及び 第19回東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想

平成30年6月10日(日)実施 会場:秦野市文化会館

「二度目の東関東選抜吹奏楽大会」

真岡市立真岡西小学校吹奏楽部 部長 篠崎 遥

今年の6月10日に東関東選抜吹奏楽大会に出場しました。2年前にもこの大会に出場させていただき、今年で2度目の出場でした。前回参加した時は、4年生だった私たちも今回は6年生という中心の立場で、とても緊張しました。また、新しい顧問の大塚先生と出会って2か月での挑戦でした。そのため、先生と息を合わせて頑張った2か月間でした。

大会当日は、「今までやってきたことを全部出し切ろう。」「2年前の結果をこえたい。」という気持ちでいっぱいでした。本番はとても緊張したけれど、とても楽しかったです。やりなれない打楽器を、一生懸命にたたいたことも思い出の一つです。結果は銅賞で少し悔しかったけれど、みんなで心を一つにして演奏できることは、最高でした。

この大会を通して、色々なことを学びました。ここで学んだことを生かして、これからも真岡西小学校吹奏楽部全員で頑張っていきたいと思います。

「初めての指揮者」

真岡市立真岡西小学校吹奏楽部 顧問 大塚 万里子

今回出場させていただいた「東関東選抜吹奏楽大会」は、子どもたちにとっても私にとっても大変刺激的な経験となりました。

私は、今年真岡西小学校へ赴任し、初めて吹奏楽部の顧問となりました。私自身は小中学校の吹奏楽部でトロンボーンを吹いてきましたが、演奏者ではなく指導者になることは違いが大きく、戸惑うことばかりでした。そんな中、真岡西小学校の吹奏楽部員は、色々なことを教えてくれる優しさを持った、練習熱心な子どもたちばかりで、2か月間助けてきました。

指揮者初舞台が東関東選抜吹奏楽大会で、大変緊張しましたが、子どもたちと一緒に演奏できたステージにとても感動し、これから頑張っていこうという気持ちになりました。

また、各団体の演奏技術の高さはもちろんのこと、ステージでの演出も大変工夫されており、観客が楽しめるステージばかりで、勉強になりました。みんなで心を一つにして、創りあげる音楽が人を感動させることを肌で感じました。

今回の経験を今後の演奏に生かせるように、子ども達と一緒に日々の練習に励んでいきたいと思います。

3 栃木県吹奏楽連盟楽曲講習会の報告

平成30年6月17日(日)実施 会場：栃木市文化会館

講 師：大井 剛史 氏（東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者）

モデルバンド：作新学院高等学校吹奏楽部

使用曲目：アルヴァマー序曲

セドナ

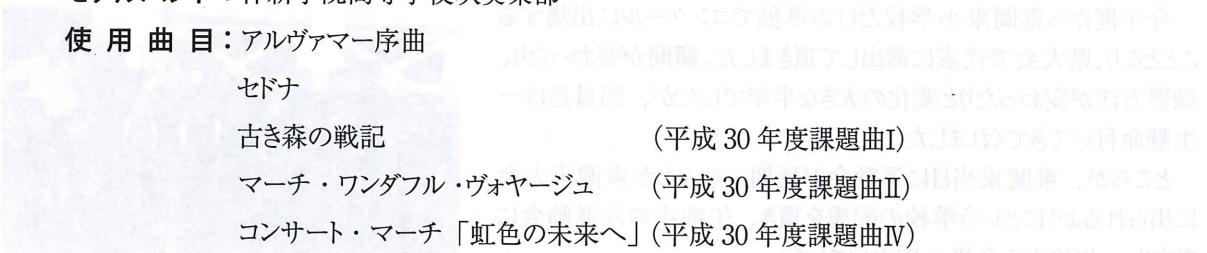
古き森の戦記

(平成30年度課題曲I)

マーチ・ワンドフル・ヴォヤージュ

(平成30年度課題曲II)

コンサート・マーチ「虹色の未来へ」(平成30年度課題曲IV)



昨年まで「課題曲講習会」という名称で実施していましたが、今年は「楽曲講習会」として課題曲以外の曲も取り入れました。指導者にとっても児童生徒にとっても、「目から鱗」の発見がありました。また、参加者が実際にモデルバンドを指揮して音楽表現の変化を体感しました。

充実した講習会でしたが、参加者が少なかったことが残念です。楽曲をどう解釈し、分析し、児童生徒の良さを活かして、目指す音楽表現にたどり着くか。自己研鑽の場として講習会を活用していきましょう。今後、たくさんの方々の参加を期待しています。



4 第24回東関東吹奏楽コンクールに参加しての感想

平成30年9月8日(土)・9日(日) 高等学校の部A部門 中学校の部A部門

会場：千葉県文化会館

平成30年9月15日(土)・16日(日) 高等学校の部B部門 小学校の部

会場：茨城県立県民文化センター

平成30年9月22日(土)・23日(日) 中学校の部B部門 職場・一般の部 大学の部

会場：宇都宮市文化会館

「東関東吹奏楽コンクールに出場して」

栃木市立栃木第三小学校 スクールバンド部部長6年 武井大知

ぼく達、栃木第三小スクールバンド部は、4・5・6年生の計31名で活動しています。ぼく達は「心から笑顔で演奏しよう」のスローガンのもと、日々練習を重ねてきました。練習のかいもあって、栃木県のコンクールでは6年ぶりに金賞をとることができ、東関東大会に出場することができました。

ぼく達がコンクールで演奏した曲は「伝説のアイルランド」という曲です。この曲はアイルランドの歴史をイメージした表情豊かな曲です。少人数で演奏する部分が多く、とても緊張します。ぼくは、最初のソロを担当しているので、いつも不安で心がいっぱいになります。けれど東関東大会では、集中して、次につなげることを意識して演奏しました。練習で気を付けてきたことを生かして精一杯吹き切ることができたので、曲が終わった瞬間に喜びがわきあがり、今まで頑張ってきて良かったと思えました。結果は銅賞でしたが、このメンバーで一緒に音楽を練り上げてこられたことが素晴らしい経験になりました。

ぼく達の部には、「夢ノート」というものがあります。これは、パートごとに、練習内容やアドバイスされたこと、目指すことなどを書き記すものです。夢ノートを通じて、お互に感じたこと、疑問に思ったことを共有してきました。パート練習でも仲間と協力しつつ、お互い高め合っていくことができたので、ひとつひとつの課題を乗り越えてこられたのかなと思います。



ぼくは、本番では練習以上のこととはできないと思っています。これからも一回一回の練習を集中して全力で取り組んでいき、バンド部全員の心をひとつによりよい演奏につなげていきたいと思います。

「奇跡の16人で臨んだ東関東大会」

真岡市立真岡東小学校吹奏楽部 顧問 有馬大志

今年度から真岡東小学校だけの単独でコンクールに出場することとなり、県大会で代表に選出されて頂きました。顧問が変わったり、練習方法が変わったりと変化の大きな半年でしたが、部員達は一生懸命付いてくれました。

ところが、東関東当日に運動会が延期。なんとか東関東大会に出られるようにという学校の配慮を頂き、午前中のみ運動会に参加し、午後から会場へ向かいました。



部員達は、運動会に最後まで参加できることで残念な気持ちも大きかったと思います。しかし、「栃木県の代表になったのだから、自分たちにしか出来ない音楽をやろう」としっかり気持ちを切りかえて本番に臨む部員達の姿に大きな成長を感じました。

結果は金賞を頂き、部員達にとっても、私自身にとっても大きな経験となりました。惜しくも東日本への出場権は3点の差で逃しましたが、悔いはありません。16人の奇跡のメンバー共々、支えてくださる保護者の方々や講師の方々への感謝を忘れず、これからもかけがえのない経験を積んでいけたらと思っています。

真岡市立真岡東小学校吹奏楽部 部長 渡邊 真紀江

私たち、真岡東小学校吹奏楽部は初めて東関東大会に出場しました。私はステージに上がる前は少し緊張していました。そして、ステージに上がってみると、たくさんのお客さんが。
不思議なことに、緊張が解けていくを感じました。

曲を吹いているときは、とても楽しかったです。みんなもいつも通り吹けて良かったと思いました。私のソロも上手く吹けたので悔いはありませんでした。

表彰式で「ゴールド・金賞」と発表されたときはとても嬉しかったです。表彰式を終え、皆の所に戻った時、部員の皆さんも喜んでいました。嬉しさのあまり泣いている部員もいました。

これからも色々な大会や演奏会を控えているので、部員一同、先生方、保護者の方々とどんな困難があっても皆で力を合わせて乗り越えていきたいと思いました。

「東関東吹奏楽コンクールに出場して」

小山市立大谷中学校吹奏楽部 部長 磯 夏実

振り返ると、私たちにとっての東関東吹奏楽コンクールは1年前の夏から始まっていたと思います。昨年の栃木県吹奏楽コンクール、金賞を受賞したものの東関東への切符を手に入れることができなかつた私たちは、悔しい思いを胸に抱きながら東関東大会と東日本大会の演奏を聴きに行きました。演奏の技術はもちろんのこと、そこで学んだことは多かったです。そして、客席から見ていた東関東吹奏楽コンクールのステージに実際に立つことが出来たこと、大変嬉しく光栄に思います。



今年演奏した「土蜘蛛伝説～能土蜘蛛の物語による狂詩曲」は情景描写が細やかで、難易度も高く、初めてこの曲を聴いたときは「最後まで仕上げることができるだろうか」と、不安や焦りがありました。練習期間中も、思うようにアンサンブルが整わなかったり、表現が共通理解出来なかつたりと苦しい時もありましたが、その都度自分達の掲げてきた目標やスローガンを振り返りながら、諦めずに部員が一丸となって最大限の努力を重ねました。そして東関東コンクール当日、どの学校も演奏技術が高く厳しい練習に耐えてきた自信に満ちあふれているように

見えました。いよいよ私たちの本番、ライトに照らされ、先生の手が動きます。適度な緊張感をもちながら、友人を信じ、のびのびと私たちらしい演奏をすることができました。そして、緊張しながらの結果発表。「大谷中学校 ゴールド金賞!」の声を聞いたときは、ステージに上がっていた私も副部長も驚き、顔を見合わせ一言「やった!」と喜びの声をあげたことを覚えています。

このコンクールを通して、厳しさから喜びが生まれたこと、諦めずに取り組むことの意義など大切なことを学ぶことができました。東日本大会には一步届きませんでしたが、皆で喜び合ったあの瞬間の感動は一生記憶に残る大切な宝物となりました。いつも私たちを支えて下さった先生方、保護者の方々、コンクールに携わって下さった多くの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

「第24回東関東吹奏楽コンクールに参加して」

高根沢町立阿久津中学校吹奏楽部 部長 堀米乃愛

私たちは、9月9日に千葉県文化会館で行われた東関東吹奏楽コンクールに出場させていただきました。阿久津中としては、東関東大会にA部門で二年連続出場、という結果は例年にはなかったので、部員には期待と不安の色が多く見られました。

舞台裏で全員の顔がこわばる中、他校の演奏を目の当たりにし、私たちはさらに緊張が増すばかりでした。「このまま演奏していいのだろうか。」そんな思いが頭をよぎりました。そのとき、どこからか「全力でやりきろう、楽しもう」という声が聞こえてきたのです。誰が言ったかははっきりとはわかりませんが、その言葉を聞いた部員たちに、少しずつ笑顔が戻ってきました。そして臨んだ12分間は、今でもはっきり鮮明に覚えています。

結果は銅賞をいただくことができました。悔しい結果となってしまいましたが、今回の大会で多くのことを吸収できたと思います。また、全国レベルの演奏を何校も聴かせて頂き、その素晴らしさに圧倒されつつ、自分たちの未熟さを改めて感じました。今回の経験で学んだことを、今後の成長に繋げていこうと思います。これまで熱く指導してくださった講師の方々、応援してくださった保護者の方々、多くの方々に感謝致します。

「東関東吹奏楽コンクールに参加して」

栃木県立大田原女子高等学校 部長 大木香菜子

平成30年9月15日に大田原女子高校吹奏楽部は、栃木県代表として第24回東関東吹奏楽コンクールに出場させていただきました。大女高にとっては4年連続の東関東大会出場となりました。

今年度の新編成になってからは、例年に比べて人数が少なく、壁にぶつかることも多かったです。そんな中で出会った曲が『恋す蝶』でした。私たちはこの曲しかないと強く思い、夏のコンクールに挑むことを決めました。表彰式で舞台から見える客席のみんなの顔は、不安と緊張でいっぱいでしたが、「栃木県立大田原女子高校 ゴールド金賞」と言われた時のみんなの安心した表情と、代表団体として呼ばれた時の喜びにあふれた歓声と涙は今でも忘れられません。

そして再び、より良い演奏を目指した毎日の練習が始まりました。この練習の中で、私は自分たちが上達していくのを確かに実感することができました。本番では、今までの練習と仲間を信じて胸を張って演奏しました。ステージ上のみんなの一体感を感じたたび、胸にこみ上げてくるものがありました。その後の他校の演奏では何度も圧倒され、やはりまだまだと思うことも多くあり、今後の練習により力を入れよう強く思いました。

東関東吹奏楽コンクールに出場できたことで、互いに高めあえる仲間や、私たちのために時間を割いて指導してくださる先生方、たくさん応援して支えてくれる家族や友人がいることのありがたさ、そしてそんな中で音楽をできることの喜びを改めて実感することができました。また、忘れてはならないのが、楽器を貸してくださった他校の方々です。この先も、周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、たくさんの感動を与えられるような演奏を目指していくたいと思います。このような機会をいただけたことにとても感謝しています。そして、大田原女子高校吹奏楽部の仲間を誇りに思います。ありがとうございました。



「東関東吹奏楽コンクール」

栃木県立小山城南高等学校吹奏楽部顧問 狐塚謙一

第24回東関東吹奏楽コンクールに出場させていただきました。今回の会場となった茨城県立県民文化センターは、豊かな響きを作ることが大変難しく、様々な試行錯誤を繰り返しました。しっかりとした残響のある宇都宮市文化会館での県大会モードから、茨城県での東関東モードに曲を練り直しました。奏法はもちろんですが、特に気をつかったのはデクレッシェンドやリリースのタイミングです。そして県大会で歌いきれなかったフレーズを、より音楽的に歌い上げ、聴き手の心に届けることが目標でした。

県大会終了後、本校はマーチングに取り組みます。同一メンバーで夏休みの約3週間、動きを伴った演奏のトレーニングを行います。この間、座奏は一切行いません。しかしマーチングに取り組むことで、体力が付き、体幹やブレスコントロールが強化されます。また動きを揃えようとして、部員同士の協調性もこの時期に大きく伸びていると感じます。そして、座奏のコンクール曲から少し距離を置くことで、客観的な視点で捉えやすくなり、曲の練習を再開したときに、より新鮮な気持ちで練習に臨むことができています。これが本校の夏の練習スタイルです。

様々な取り組みをして臨んだ結果、東関東吹奏楽コンクールは銀賞でした。本番では最善を尽くし、私たちの良い部分も悪い部分も充分に演奏に現れました。審査員一人ひとりが、私たちの演奏を丁寧に評価してください、今後望まれる要素も教えてくださいました。ありがとうございます。ですが、生徒たちには少し不本意な結果だったのかもしれません。帰りのバス内は沈黙と涙が支配しました。それでも学校に到着すると「目が腫れていて嫌だけれど、銀賞をとったこのメンバーで集合写真を撮りたい」と。

どんなに厳しい状況にあっても、愛する音楽に日々取り組む城南高校吹奏楽部の人ひとりを、内心とても誇らしく思います。

「三年目の悲願」

宇都宮短期大学附属高等学校吹奏楽部 部長 三塚菜穂

東関東コンクール出場というのは、二年連続で県大会金賞を受賞したものの、代表に選ばれることができなかつた私たちにとっては、最大の目標であり、憧れの舞台でした。悔しい経験を積んできた私たちは、先輩方の意思を受け継ぎ、一心に練習を重ねてきました。特に3年生にとっては、このままでは終われないという、確固たる決意がありました。そして、手にした東関東大会への出場権。言い表せないほどの喜びと、代表として選ばれた責任感とで、一層練習は気が引き締まりました。

出演順の関係などで、他の学校の演奏を鑑賞することはできませんでした。しかし、自分達の演奏直前の舞台裏での待機中、前の学校の演奏が聴こえてきたとき、壁越しでも分かる、その圧巻の演奏ぶりに、やはり東関東コンクールのレベルの高さがうかがえ、緊張するよりはむしろ、このような素晴らしい舞台で私たちが演奏できることに感動し、やる気が漲ってきました。憧れだった東関東の舞台は本当に眩しくて、たくさんのお客さんがいました。自分達のやってきたことを信じ、堂々と演奏することを考えました。

コンクールの結果は銅賞でした。涙を流して悔しがっている部員も多くいました。しかし、今回県大会で結果を残し、東関東大会へ出場したということは、部活を引き継ぐ1、2年生にとって、次に繋がる大きな経験になつたと思います。引退する前に、後世の部活のために何かを残せた。そのことが、私はとても嬉しいです。まだまだ未熟な宇短附吹奏楽部ですが、この先もっと成長し、胸を張って栃木県代表として、また東関東コンクールに挑めるよう、後輩たちにも頑張ってほしいと思います。

吹奏楽部を続け、大会に出場するにあたり、指導してくださる顧問の先生方、レッスンの先生方、応援してくださる先輩方や保護者の方々、大会運営関係者の方々など、たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。



5 第24回東関東マーチングコンテストに参加しての感想

平成30年10月7日(日)実施 会場:ひたちなか市総合運動公園総合体育館

「東関東マーチングコンテストに出場して」

栃木市立大平中学校吹奏楽部長 卷島碧泉

大平中学校吹奏楽部は、今年初めてマーチングにチャレンジしました。何もかもが初めてだったので、スタートにあたっては不安が大きかったです。それでも、マーチングに挑戦してみようと思ったのは、部員不足がきっかけです。近年、本校では運動部が人気で、文化部員は減少傾向にありました。しかし、運動部に入りたいけれど音楽もやってみたいという新入生が多くいることを知り、運動の要素があるマーチングを取り入れたらどうかという結論に達しました。そして今年度は、マーチングをやってみたいという新入生がたくさん入部してくれました。



練習は手探りでした。顧問の先生は吹奏楽の経験はあるものの、マーチングはやったことがないということだったので、全員で練習用DVDを観ながら動いてみました。歩幅を 62.5cm に合わせるという地道な練習は、非常に大変でした。また、動きと演奏の両立にはとても苦戦しました。しかし、動きと演奏がぴったりとそろった時の達成感は大きく、新しいことにチャレンジすることに意義や楽しさを感じました。

県大会での演技は、多くの課題を残すものの東関東大会に推薦していただきました。茨城県で行われた東関東大会では、栃木県の代表として堂々とした演技をしたいと意気込んでいましたが、広いメインアリーナと大勢の観客に圧倒され、納得のいく演奏・演技ができたかどうか反省が残ります。しかし、この大会に出場できたこと自体が貴重な経験であり、大きな学びとなりました。他団体のレベルの高い演奏・演技やステージマナー、爽やかないさつや返事など、東関東に所属する学校の吹奏楽に対する意識の高さには驚きました。私たちも、その一員であるという自覚を持たなければならぬと感じました。

私たちは、マーチングを通して心身ともに成長することができ、これまで以上に仲間との絆を強くすることができました。これまでにご指導いただいた先生方、支えてくださった皆様に感謝し、これからも努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。

6 第18回東日本学校吹奏楽大会に参加しての感想

平成30年10月13日(土)実施 会場:仙台銀行ホール イズミティ21

「夢の実現」

茂木町立茂木中学校3年 吹奏楽部長 小林優希

私たち茂木中学校吹奏楽部27名は、10月13日、宮城県仙台市で行われた第18回東日本学校吹奏楽大会に出場しました。「東日本大会」それは私たちも、私たちの先輩方も夢に見てきた大会です。



茂木中学校吹奏楽部は、先輩方が7年連続東関東大会出場という素晴らしい歴史をつくってくれました。私たち3年生は、いつの間にか8年連続という見えないプレッシャーを感じるようになりました。焦りから思うように曲作りや音作りができず、悩む日々を送りました。そんな時、私たちは全員でミーティングを開き、納得のいくまで話し合いました。「誰もが認めてくれるような演奏をしよう」と目標を立て、練習を始めました。大会を重ねるごとに、私たちは「さらに良い演奏をしよう」とみんなで話し合い、練習しました。

そして「良い演奏を」と頑張るとともに、周りの方々への感謝の気持ちも強くなっていました。毎日熱心に指導してくださいました。先生、私たちを応援し、支えてくださる学校の先生方、先輩方、楽器搬入でお手伝いしてくださる

保護者の方々、そして大切な仲間、みんながいてくれるから上を目指せるのだと思うようになりました。

東日本大会の演奏は、吹奏楽を始めて一番楽しい7分間でした。胸がいっぱいになり、涙があふれるほど幸せな時間でした。演奏が終わったとき、みんな笑顔でした。今までで一番の演奏ができたからです。結果は金賞。みんなで喜び合いました。吹奏楽を続けて本当に良かったと思った瞬間でした。夢の舞台で27人で演奏できることは大切な宝物です。

7 コンサート情報

♪第14回高根沢町立阿久津小学校金管バンド定期演奏会

平成31年3月10日（日） 13時30分開演 高根沢町民ホール 入場無料

演奏曲目：4年連続出場全国小学校バンドフェスティバル演奏曲「ライオンキング」

管楽合奏コンテスト演奏曲「プラスのための小組曲」他

編集後記

栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 沼尾和子

広報誌「吹奏太郎」を最後まで読んでいただき、ありがとうございました。初めて広報誌を担当し、先の見通しが立たずに四苦八苦しながらの作業でした。大ベテランの前任者から資料や細やかな助言があり、とても助かりました。

夏休み終盤に広報部会を開いた折に、今までの内容を踏襲しつつ新たに掲載してみたいこととして、

- ・コンクールやコンテスト以外の活動
 - ・各地区（支部）の情報
 - ・小規模校の悩み、工夫した取り組み
 - ・指導理念などの特集
 - ・限られた時間での工夫した練習方法（練習メニュー・スケジュールの組み方）
- などの他、
- ・広報誌の読み手は誰だろう？
 - ・児童生徒が知りたいことは？

といった視点での意見もありました。実現するのは難しい内容もありますが、「3人寄れば…」の諺のように、広報部員一同知恵を出し合い、加盟団体の皆様方のご協力を得て「吹奏太郎」を発行したいと考えております。それぞれの場面や立場からの要望・意見・感想など、堅苦しく考えずにお寄せください。なお、2号は3月下旬発行を予定しておりますので、新年度のコンサート情報もお待ちしています。

平成30年度1号発行にあたり、原稿をお寄せくださった多くの方々に、改めて「ご協力ありがとうございました。」

《お願い》原稿依頼がありましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、事務局にお送りいただけますようお願いいたします。